

# 市民環境大学OB会 ニュースレター



第32・33合併号 2020年8月20日 発行 初夏の息吹 高幡不動のあじさい

## コロナ禍によるニュースレター発刊遅延

2020年は中国から始まった新型コロナウイルスが全世界に広まり、8月になっても終息の目途が立っていません。本日現在で世界の感染者は1850万人、死亡者も70万人を超えています。日本でも緊急事態宣言が発令され、現在は解除されたものの感染者数は東京都をはじめ日本全国でまた増加傾向で第2波が始まっています。特効薬やワクチンの早急な開発が待たれるところです。

我々OB会も新型コロナウイルスの影響でカワセミハウスが閉鎖となり、3、4、5月と例会が未開催で6月から再開となりました。ニュースレターは今回、32・33合併号として8月の発行となります。

## OB会の定期的活動報告(放射線量・湧水量)

日野市民環境大学OB会の主要活動は定期的な放射線量と湧水量の測定です。放射線量測定は東日本大震災後の2012年から開始しました。我々の住む日野市での放射線量の実態を知り、終息への見通しを探ることです。2点目の湧水量の測定は日野市の貴重な財産の湧水を定期的に測定し、その実態把握と保護活動の一助とすることです。

一方、これらの測定は毎月定期的に行っていますが、その測定値の報告は断片的なものでした。そこで、今後は測定データを定期的にニュースレターで報告していくこととなり、今回は第1回目として最初に飯島会長に測定活動の意義をご挨拶頂き、測定報告は本活動に初期から継続参加して頂いている原田さんに今までのデータをまとめて頂きました。

### 「OB会の放射線量・湧水量測定について」

OB会長 飯島 利三

平成31年度「公益信託・遠藤記念三多摩自然環境保全基金」の助成をいただきたく、申請を致しました。これは、放射線量・湧水量が平素どのような状態になっているかをできるだけ正確にきちんと測定して、現時点での基礎的な数値として広く市民に周知し、理解しておいて頂きたいと考えたからです。気温や降水量の変化については年報「とうけい日野」に報告されています。しかし、黒川清流公園のような特定地域の湧水量や放射線量は市民団体が補っていくべきではないかと考えています。

幸い、私達は前年度・本年度と続いて助成をして頂くことになりました。大変ありがたく感謝申し上げますと共に一層責任の重さを自覚して取り組んでいく所存であります。

ここ十数年の間、かなりの頻度で地震が起きています。大きな天変地異の前に平常時の基礎的な数値がしっかり把握されていれば、その変位量は相当に正確に測定できるものと思います。

長い歴史に刻まれ、変化に富んだ地形とそこで育まれてきた動植物、黒川清流公園の造形の素晴らしさは未来永劫にわたって自然遺産として保全して行ってほしく思っています。市民環境大学OB会として黒川清流公園を中心とした段丘崖群を日野市民と一体となって保護・保全に努力していきましょう。

### OB会 放射線測定、湧水測定 地点

#### <放射線測定地点と測定条件>

測定地点：(A)生活保健センター周辺の7地点  
(B)日野市役所周辺の5地点

線量測定：日本精密機器社製の空間線量計  
(DC-100)

測定回数：各地点各5回測定

測定高さ：1m

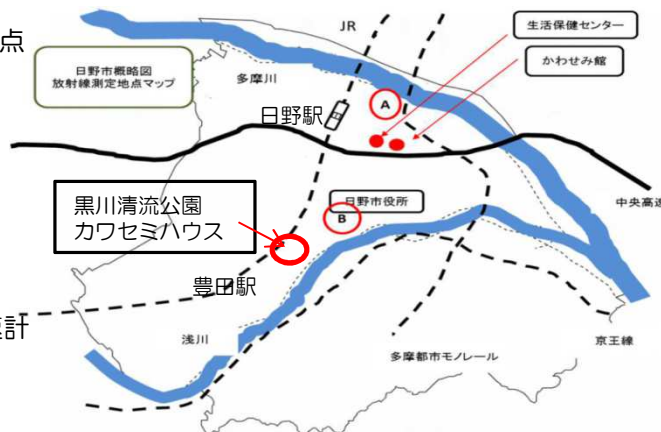
#### <湧水測定地点と測定条件>

測定地点：黒川清流公園内4地点

流速測定：(株)ケネック社製プロペラ式流速計  
(VR-301)

測定回数：各地点5回測定

流量計算：測定部流水断面と流速より計算



2011年3月11日の東日本大震災による福島第一原発事故を受けてOB会による放射線量の測定が始まったのは翌年の3月からでした。今日までの9年間、月に1度、任意で選んだ12か所を延べ500人余りの参加者により紆余曲折がありながら継続できたことは誇れることだと思います。

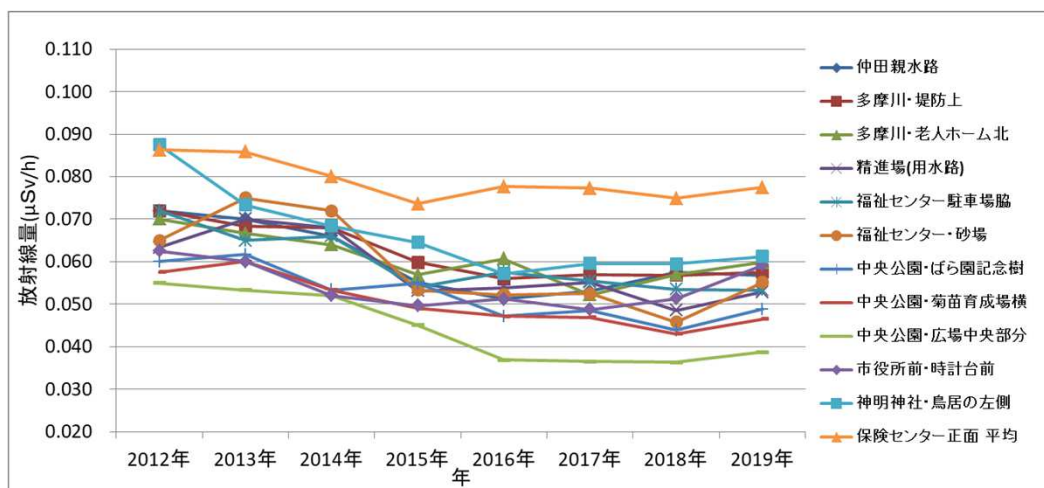
さて、この度、前回の公表から5年目の節目を迎えるにあたって測定当初から昨年までの測定データをグラフ化(下図)してみました。これで解ったことは2016年以降は然したる変化が見られないということです。放射線量がほとんど自然界に存在するレベルで推移しています。このことから測定箇所の低減や測定期間の見直しを提言する声が会員から上がっています。勿論東京電力が発表している発電所外周の線量は今でも私達の測定値とは1桁異なっており、原子炉建屋内はまだ人を寄せつけない、処理に30年以上掛かるとされているデブリが残されたままです。アクシデントに備えての平時の測定が重要なことは誰もが承知していますが、この先長く続けていくための工夫も不可欠だと考えています。

一方、湧水量測定は2016年春に谷仲山湧水地で測定スタートしました。その後、2017年4月にカワセミハウスが黒川清流公園脇にオープンし、OB会の拠点も移ったため湧水測定も黒川清流公園内に新たに4地点を設定し開始しました。(このあたりの経緯は19号に投稿しています。)

今回の報告では測定方法も安定してきた2018年、2019年の年間湧水量推移をグラフ化しました。この2年を比較すると、年間の湧水量合計値は2018年が243(ℓ/s)に対し、2019年は496(ℓ/s)と倍増しました。これを降水量との相関で見ると相関係数が2018年は0.59に対し2019年は0.92と非常に強い結果となり降水量増加の影響が見られます。時期的な観点でも冬季が少なく夏から秋、特に10月が非常に多くなっています。

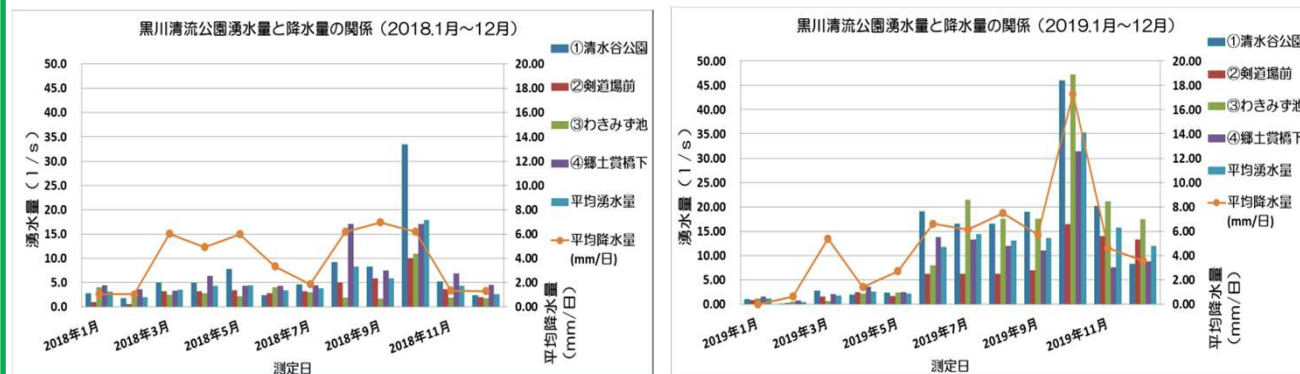
黒川清流公園の湧水はニュースレターでも何回も取り上げているように公園上部の多摩平の森・マンション新築工事の影響を強く受けており、今後も測定を継続することで見守っていきたいと思っています。

放射線測定結果の推移(2012年~2019年)



参考：福島原発敷地境界最高値は2012年で7.5(μSv/h)、2019年は1.35(μSv/h) (東京電力HPより)

黒川清流公園湧水量測定結果の推移(左図：2018年、右図：2019年)



OB会メンバー 活動イベントニュース

- 今年も全国一斉水質調査に参加(6月実施)
- 遠藤基金2019年度分受領、2020年度分も申請済
- 窒素酸化物測定に参加(6月実施)



[OB会コラム] 今回のOB会コラムはニュースレター常連の田中さんの連続登場です。新型コロナウイルスの影響で自宅滞在時間が多くなったため日頃思っていたことをつづられたとの事です。いつもながらの田中さんの豊富な知識量や見識の奥深さに感銘を受けます。大変長文ですが今回は一挙掲載します。

投稿 桜と人との係わりを時の流れのなかで考える。・・・・・・・・徒然雑記

OB会 田中 徹

### 《プロローグ》

2020年4月、桜が開花の時期なのに花見もできず、新型コロナのパンデミックで大変な事態になってしまいました。自宅滞在が多い毎日なので日頃から桜について思うことが多々あるのでこの機会に書いてみました。



ラグビーエンブレム

昨年2019年はラグビーワールドカップが日本で開催され、日本代表の選手はジャージーの胸に桜のエンブレムをつけグラウンドで躍動し大きな感動とスポーツの素晴らしさを多くの人と与えてくれました。先の第二次世界大戦では日本の若者達は桜一輪がデザインされた、軍服のボタン、徽章、帽章をつけ桜花に化身され戦場で200万人以上の軍人が命を落とし悲惨な惨禍をもたらしました。この違いは何でしょうか、日本人の桜の係わりについて触れてみたいと思います。

### 《桜と人との係わりを振り返る》

日本にはオオシマザクラ、オオヤマザクラ、エドヒガン、ヤマザクラ、マメザクラ、タカネザクラ、カンヒザクラ、カスミザクラ、ミヤマザクラ、チョウジザクラの10種が野生種とされています。なかでもヤマザクラは人里にも多く、古くは桜といえばヤマザクラでした。日本は瑞穂の国と言われるように稲作が主な農耕国です。古き世に当然ながら米作りの苗床作り、田植えなど自然現象の変化から時期を読み取る知識を学んできたと思います。地域によってコブシ、ハンノキ、ヤマザクラが農業と係わってきましたが、なかでもヤマザクラが稲作や日常生活のなかで一番利用され日本人の桜を愛する文化が培われてきたのでしょうか。



黒川清流公園のヤマザクラ

もともとサクラの「さ」は田の神のことで「くら」は神の依代(よりしろ)です。さつき(皐月)、さなえ、さおとめ、さのぼり(田植えの後に神が帰る)など、今も言葉として残っています。

田植えの頃に田の神が山から下りてきて桜の木が依代になり花を咲かせ田植えが始まります。この木が「種まき桜」、漁村では「魚見桜」で村や集落で1本の桜が決まっていた。クローンのソメイヨシノと違い野生種の桜は個性があり環境条件によって開花時期に違いがでてくるのです。田植えの後には桜の木の下で豊作を祈り神様と飲んだり、食べたり、歌ったりしたのでしょうか。ここには花見の原形が感じられます。

日本には古くから神との共食があり、今も祝い事で使用する祝い箸は両端が細くなっています。

奈良、平安時代の万葉集、古今集には桜を詠んだ歌が多く古今集の時代には貴族のなかに桜文化が根付き花の宴などが開かれます。歌の内容は桜の美しい情景や恋にからめた歌ばかりで、田作業にいそむる民百姓の生活感情とは程遠い感覚です。

鎌倉、室町時代の武家社会になり新古今集には桜が散る儚さが詠まれるようになりますが死の美学を連想させるような歌はありません。豊臣秀吉が催した吉野山、醍醐寺の花見は有名ですが庶民の花見が一般的になるのは江戸時代になってからです。

江戸時代、将軍・家光の側近・天界が吉野山からヤマザクラを取り寄せ上野の山に多数植えられ桜の名所になります。群落する桜を庶民が見る花見は江戸時代に育った文化です。それまでの桜は「種まき桜」、御所紫宸殿の「左近の桜」のように一本の桜が見る対象でした。そもそも桜は群落をつくる植物ではありません。群がって咲いている所があれば吉野山など植栽奉納されたものです。ヤマザクラなど野生種は一定の距離をあけて生育します。

桜は鳥による種子散布なので鳥は食べたらすぐ飛び去ります、離れた木で休み消化し飛び立つ時に糞を落とすのです。だからヤマザクラは山肌に斑点のように咲き遠くから山容を眺めると花灯火が灯っているような美しい情景を見た人も多いと思います。

江戸時代には江戸の町づくりにも桜が利用され川の堤や埋め立て地にも植えられました。

八代将軍・吉宗の時には飛鳥山、御殿山、隅田川、小金井(玉川上水)にヤマザクラが沢山植えられ庶民の花見の名所になっていきます。桜の文化が武士階級から庶民へ広がっていく背景には参勤交代の役割が大きく関わっています。

家光や吉宗も桜好きでしたので各藩の屋敷の庭園は国許から取り寄せた色々な桜が江戸に集中し栽培園芸文化が発展しました。国許からは多種な植物が持ちこまれましたが桜が中心でした。桜は自家不和合性があり自分の花では受精しないので、各地から多種の桜が持ち込まれた江戸は異種交配のチャンスが増えたのです。

## 《ソメイヨシノの誕生から侵略戦争への道》

そしてソメイヨシノが江戸後期に駒込染井村で誕生しました。当時は商品名がヨシノザクラの栽培種です。いまでは遺伝子解析によりエドヒガンが母親、オオシマザクラが父親で誕生したことが解っています。花が沢山つき豪華なのでたちまちひろがります。明治18年頃、上野公園の桜が調査された時、ヤマザクラと違う咲き方をする桜に気づき調べたところ染井村の植木屋が植えたことが解り、明治33年にソメイヨシノの名前がつけられたのです。



黒川清流公園の里桜

染井村、小梅村は武家屋敷の庭園を支え植木業を生業とする職人が多く住んでいました。そこでは栽培種の桜が次々につくられ、その数は250種以上といわれています。江戸末期は野生種の桜に栽培種が加わり日本の桜文化が最も円熟した時期かもしれません。武士階級から庶民を巻き込んだ栽培園芸技術文化は幕末から明治に來日した西洋人が驚愕することになります。

しかし幕府が崩壊し武士階級が没落すると桜の栽培園芸文化も急速に衰退します。大名屋敷は明治政府により桑園や茶園にされ里桜(栽培種)は大名の固有種であったため放置され枯れたり、伐採されたり運命をたどり、この時消滅した里桜も多いのです。明治新政府は先進諸国に追いつくため富国

強兵の政策をとります。この時から利用されていくのがソメイヨシノ(当時はヨシノザクラ)でした。

江戸時代の桜の名所だった上野の山、飛鳥山、向島などヤマザクラが駆逐されソメイヨシノが植えられていきます。明治中期になるとソメイヨシノの大量生産が可能になり街路樹の3~4割がソメイヨシノになります。

ソメイヨシノの勢いが強まる中、小金井のヤマザクラと、ソメイヨシノに抗して多くの里桜が植栽された荒川堤は貴重な桜名所として残っていました。

明治新政府の廃藩置県による太政官達で全国の城郭が召し上げられ陸軍省と文部省の管轄下に存城、廃城が決められていきます。軍事上重要な城郭(43カ所)は陸軍省が管轄し軍の鎮台(師団駐屯)や連隊の駐屯地になり、他の城郭や陣屋などは文部省が管轄し県庁、裁判所、学校などになります。これらの城址地に軍の進出と同時にソメイヨシノが加速度的に植栽され明治~大正期に軍事色が全国に広がるのと同じくしてソメイヨシノが国中を塗り替えていきます。

今でもこれらの城址は花見名所として知られています。

昭和になると軍国主義は日本の桜の多様性を否定するだけでなく人の心の多様性も否定していきます。江戸時代の文学者・本居宣長や、とんち話や破戒反骨で有名な室町時代の一休禅師・僧であり歌人の狂歌を改ざんし武士道に導き「死の美学」として軍国主義に動員していきます。ご存知のように本居宣長も一休禅師も武士ではないのです。

現在の政治が改ざんされているのと同じです。宣長の「敷島の和心を人問えば朝日に匂う山桜花」は、そもそも「日本人の心は愛らしいヤマザクラを愛する心」だと詠んでいるのです。この宣長の歌は日本軍の特攻作戦初出撃に使われます。出撃した24機は「敷島隊」、「大和隊」、「朝日隊」、「山桜隊」と命名されました。特攻機の機体に桜が描かれ爆弾は「桜弾」、桜が咲く時期に出撃した隊員の胸には桜の枝が挿されたと言われていました。軍服の桜釦などについては最初に書きましたが桜を利用して若者を死に追いやったのです。



黒川清流公園のヤドリギがつく桜

宣長は山桜が大好きで山桜に着いているヤドリギのように山桜と一緒にいたいと詠んでいる歌もあります。黒川清流公園にも桜に半寄生しているヤドリギがみられます。一休禅師の言葉と言われる「人は武士、柱は檜、魚は鯛、小袖はもみじ、花はみよしの」の狂歌も単純に解釈すればいいのに「花は桜木、人は武士」と改ざんし「パット咲き、散っていく潔い死に方が武士道」とされてしまいます。

最初「花は桜木」の言葉はありませんでした。

「花はみよしの」は吉野の山桜で、花札の赤短に描かれている通りです。

「貴様と俺とは同期の桜・・・・・・見事死にましよう国のため」何ともむごい破滅の道を進む歌の言葉です。

## 《日本の桜守たち》

日本中の人の心が軍国主義イデオロギーに塗りつぶされ、ソメイヨシノ一色に変えられていくなかでこの状況を憂い日本の多様な桜、野生種と300~400種と言われる栽培種(里桜)を守るため権力に抗し桜を真に愛した人達に触れます。明治初期、大名屋敷が消えていく時屋敷跡の庭園から里桜の穂木(接ぎ木用)を集めた染井村の植木屋・高木孫衛門、京都造園会社・佐野藤右衛門14、15代、と香山益彦、荒川堤にソメイヨシノ以外の里桜を植えた清水謙吾、船津静作、三好学、昭和の時代ソメイヨシノ一色を批判した井下清、山田孝雄の人達がいました。各所で里桜が伐採されるなか船津静作は里桜を守るために行動をおこします。



ひそかに埼玉の遠縁に穂木を送り、更に苗木栽培家・小清水亀之助に引き継がれ軍部の伐採命令から守りぬきます。その後も幾つかの困難、経路たどり戦後1960年代自然保護の機運が高まるなかようやく国が動き八王子の「多摩森林科学園」にかろうじて守り残されていた里桜が集められ、船津の桜もこの地に植栽されました。日野からも近いので2月下旬～5月上旬頃まで、ぜひ花見に訪れて欲しいです。1300本の桜が見られます。

### 《日本の桜を救ったイギリス人、チェリー・イングラム》

ようやくこの文の書きたい部分になりました。日本の多様な桜を守り救った貢献者に一人のイギリス人がいたことを記憶したいと思います。私も最大の桜守が日本人ではなくイギリス人だったことは驚きでした。名前をコリングウッド・イングラム。後年人々は園芸家の彼をチェリー・イングラムといいました。20世紀になりヨーロッパでは浮世絵や陶器など日本ブームが起きイングラムも日本に関心をもつようになります。日本には三度来日していますが、初来日は21歳の折オーストラリア旅行から足を伸ばしてやって来ますが1902（明治35）年9月、桜とは無関係の観光旅行で2週間の滞在でした。この時は日本の美しい自然や日本人のおおらかさに接し大いに満喫しています。

二度目の来日は1907年（明治40年）4月20日、前年に結婚した新婚旅行でした。この頃イングラムは野鳥の研究をしており旅行は研究も兼ねていました。桜も終わった時期で約一ヶ月半滞在し各地を巡り、帰国後に日本の野鳥について論文を発表しています。

1919年ロンドン南東のペネンドン村に新居を購入して移転します。農地つきの住宅には住宅のそばに2本の桜が植栽されていました。入居した時は花の時期は終わっていましたが翌年開花した桜との出会いがイングラムと桜のラブストーリーのきっかけになります。その桜こそ前の住人が残していった種名は不明ですが日本の桜でした。当時アメリカ経由などで日本の桜がイギリスにも入っていました。古くはツンベルク、ケンペル、シーボルトなどが日本の植物を紹介していますがまだ珍しいものでした。イングラムの頭のなかには鳥類研究から「桜の園」造りに夢が変わります。

イングラムは日本の桜収集に必死に取り組みイギリスやアメリカの植木商から100種もの桜を集めイギリスでは収集の限界になります。そして三度目の訪日を決意します。「日本の多様な桜を集める」桜行脚でした。



左：25歳の頃のイングラム 中：2014年春イングラム庭園に咲く太白 右：1927年当時の小金井の桜(イングラム撮影)  
(日本に里帰り)

写真は阿部菜穂子著「チェリー・イングラム」に掲載されているものです

三度目の来日は1926年（大正15年）3月30日、桜開花の時期でした。約二ヶ月滞在しています。イングラムは日本の姿に幻滅します。日本の多様な桜がソメイヨシノ一色に塗りつぶされて行くのを察し大変な危機感を持ちます。「すでに失われてしまった種もあるが日本の桜を救おう」と決意します。

東京、京都、横浜などで集められるだけの穂木を注文し船便で送りますがイギリスに着いた時には枯れてしまったものも多かったようで、シベリア鉄道も使用しています。何度も苦労し穂木を大根に刺して送ったものは枯れなかったとも書かれています。こうしてイギリスの地に日本では絶滅した桜や、イングラムが交配した新種の桜も加わり、日本の桜からなる、日本でも見られない「桜の園」が誕生し、イギリス全土に日本の多様な桜が広がっていきました。日本では絶滅した栽培種『太白』、『大黒』などを里帰りさせたのもイングラムでした。イングラムは日本の多様な桜を集め愛しましたが最も愛したのは自然のなかの素朴で清楚な桜でした。日本人の誰よりも桜を愛し守ってくれたイングラムを忘れてはならないと思います。

### 《僕の桜が新しい時代の桜になるように》

チェリー・イングラムを書く最後に悲しい辛い内容ですが書かねばならないことがあります。

第二次世界大戦の折香港はイギリスの植民地でした。イングラムの三男の婚約者が香港のイギリス軍の看護婦で従軍していました。1941年12月8日真珠湾開戦直後わずか17日後の12月25日、日本軍の攻撃により香港のイギリス軍は降伏し彼女も日本軍の捕虜になります。この日は黒いクリスマスと言われ日本軍の残虐は国際法や人道に決して許されないことでした。香港以外も含めイギリス人の捕虜は2000人以上と言われています。

1945年8月、日本軍の降伏によって彼女も解放されイギリスに帰国し婚約者と結婚することになりました。義父のイングラムが日本の桜を愛し日本の桜で造られた「桜の園」の桜に接しても彼女は決して日本の桜を愛でることは無かったそうです。日本軍に与えられた心の傷がいかに深いものであったかを私達日本人は忘れてはならないと思います。

イングラムの死後の戦後50年近い1993年イギリスの日本の桜・収集家から新たに日本で作られた新種の松前桜を購入したい話が開発者である浅利政俊に届き、浅利は日本軍の捕虜問題を熟知憂慮していたので松前桜58種を無償で寄贈します。「明治時代イギリス人技術者が大勢函館に来て水道技術や造船技術を教えてくれたにもかかわらず、日本人はその恩返しをせず、大戦中に残酷な仕打ちをした。私はいつか償いをしたいと思っていました」と語っています。まさに日本の過去に対する「償いの桜」でした。

### 《多様性を持つ桜・ラグビー・人間社会》



花札のヤマザクラ

最初に書いたように、ラグビーが与えてくれた感動のジャージーエンブレムの桜は自然が作ったヤマザクラであり、日本軍が桜（釦や徽章）を胸に死に突入していった桜は人に作られたクローンのソメイヨシノでした。デザインを見れば解るようにヤマザクラには葉がついており安土・桃山時代からの遊び、花札の青短「みよしの」の絵にも葉がついており、ラグビーエンブレムの桜も葉がついているのです。

日本軍の桜ソメイヨシノは開花時には葉がありません、ソメイヨシノを利用して主従関係を作り・・・国家・・・のために死を強制、強要したのです。

ラグビーの桜ヤマザクラは、桜を愛する働く民の桜です。平等の精神、郷土・・・国・・・人・・・人々を愛することです。

1950～1970年代、早稲田大学ラグビー部監督、日本代表監督として日本のラグビー界をリードし続けた理論的指導者・大西鐵乃祐の言葉です。『僕は試合に出る選手にかならず「勝ってこい」といいます。競技や勝負を否定する考え方もありますが、そんなもん、僕にいわせれば気の抜けたビールと同じですよ。もちろんケンカではありませんよ。しかし、闘争をどう人間らしくやるかを教えるのがスポーツです。それがフェアです』

大西は次のようにも語っています。「戦争は残酷であり、残忍で人間を変えてしまう、人を殺す武器を与えられ、殺し合う状況に立ったら、理性も何もなくなる。相手に憎しみも殺す理由もないのに、そんな時に、ちょっと待てと言え人間がいなければ、どこまでも転がり落ちてしまう」

多くの人に感動を与えるスポーツ、音楽、文学、絵画、映画演劇・・・等々様々な文化が真に戦争の抑止力になります。

軍事力のバランス（抑止力）による平和は極めて危険な虚構の平和にすぎないと思います。人類は「抑止力の呪縛から」解放されなければならないでしょう。

今コロナウイルス禍の厳しい生活を余儀なくされているなか、最も進んだ頭脳を持つ人間が人を殺す軍事費を新感染症の対策や環境課題、飢餓貧困、格差問題等の解決に振り向けないと21世紀を生き延びられるのか疑わしくなります。

ラグビーは多様な役割を持つ選手で構成されます。ラグビーの精神\*「One For All、All For One」、「No Side」「一人はみんなのために みんなは一人のために」「ノーサイド」は人間社会の未来を暗示しているように思います。

（備考：\*「One For All、All For One」、「No Side」「一人はみんなのために みんなは一人のために」について「一人はみんなのために みんなはひとつの目的（勝利）のために」と言われることもありますが「一人はみんなのために みんなは一人のために」の言葉が好きです）

### 《エピローグ》

ソメイヨシノも栽培種（里桜）の一種です。日本に野生種や数百の栽培種の多様な桜が存在することは素晴らしいことです。これからも日本人は多様な桜が時期をずらしながら長い間、咲いていく姿に感動することでしょう。

そして古き時代からの田植えを終えた人達が桜の木の下で神と食べたり、飲んだり、歌ったりしたように花見の文化は平和な文化の象徴として続いていくことでしょう。

2020/04/30